

調査研究彙報

薬師寺典籍文書調査 東大史料編纂所との共同調査。第16・22・23・25・26函の整理分類・調書作成と、第21函の写真撮影を行った。うち第16函については調書作成を完了し、第21函について写真撮影を継続中である。各函に多量な近世文書が収められているのは従来指摘の通りである。現在、第1～21・24函が調書作成了で、第22・23・25・26函が継続中であり、また第1～19函の写真撮影を終えている。92年7月。 (綾村・佃・館野・森・渡邊)

醍醐寺文書調査 醍醐寺文書の写真撮影を継続中であるが、今年度は第15・16函について継続して実施し、マイクロフィルムによる撮影は完了した。92年8月。 (綾村・佃・渡邊)

大友家文書の調査 東博の文化庁分室で写真撮影を行った。93年3月。 (綾村・佃・森)

歴史研究室によるその他の調査 文化庁美術工芸課の依頼により石山寺蔵校倉聖教の調査・写真撮影に協力(92年8月)。石山寺・滋賀県教委の依頼により同深密蔵聖教調査に協力(92年8月・12月、93年2月)。静岡県教委の依頼により三嶋大社文書調査に参加(92年8月)。北浦直人氏の寄贈を受け北浦定政関係資料(木箱2箱)を受納。92年4月。

法隆寺所蔵佐波理製容器の調査 法隆寺所蔵の佐波理製容器計20点の実測を行い、X線透視によって製作技法を観察し、蛍光X線分析によって材質を調査した。その結果、奈良時代後半から平安時代に入ると鉛の比率がやや高くなること、鎌倉時代にはつくりが厚手になること、飛鳥時代の製品もあることなどが判明した。次年度は紀年銘資料を中心に考古学的調査と科学分析調査を継続する予定。 (平城調査部考古第1・2調査室、埋文センター遺物処理研究室)

飛鳥池遺跡出土金属製品の材質調査 当遺跡出土の金属製品は、鉄、銅、銀-銅合金で、銀-銅合金遺物に関しては前年報告し、銅製品について調査した。銅製品には魚々子や人形などがあるが、組成はほぼ近似する。Cuは97～99%で、不純物として、Fe=0.2～0.02%，Pb=0.2～0.02%，As=0.09～0.02%，Ag=0.5～0.1%，Sn=0.3～0.02%が含有している。 (肥塚隆保)

年輪年代学の国際研究集会 1992年5月15日から5月16日にかけて、イタリアのレッチャでヨーロッパ諸国の年輪年代学研究者が一同に会し、最新の研究状況を報告した。日本からは光谷一人が参加し、ヒノキを用いた年輪気象学の研究成果について報告した。 (光谷拓実)

大通寺建造物調査 滋賀県長浜市にある大谷派別院の大通寺の境内にある近世の堂舎の保存方針を検討するため、境内のすべての建物の調査を行った。本堂以下3件は重要文化財、門2棟が市指定文化財であるが、この他庫裡・鐘楼などが近世の優品で、類例の少ない講の建物も良質である。『大通寺建造物調査報告書』(長浜市教委)として成果を刊行。 (山岸・松本・島田・藤田)

総光寺庭園の実測調査 本庭園は山形県飽海郡松山町にある県指定名勝で、正確な作庭年代は不明であるが、享保9(1724)年以後に藩主がしばしば花見に参詣し、この頃には庭園が完成していたとみられる。庭園は本堂の南に連続する書院の東庭で、東方の峯から連続する傾斜面を築山とし、そこから裾部の園地に滝が落とされている。実測面積は約1500m²。 (本中・岸本・内田)